

第 4 回市史講座ミニレポート：平成 30 年 7 月 21 日（土）

「武家屋敷の修理と復原」

足立正智先生（松江市文化財保護審議会委員）

「武家屋敷」の保存修理工事は今月末で完了します。修復と復原に関わられた足立正智先生に、お話しいただきました。

まず、「武家屋敷」の改修工事と同時に行われた調査についてお話しされました。今まで「武家屋敷」は、享保 18 年（1733）の大火によって焼失し、再建建築がされたものが、現在の建物だと言い伝えられていたそうです。



今回の調査のポイントとして、

- (1) 「武家屋敷」は 300 年近く経過した建物であるかどうか
- (2) 「武家屋敷」の間取りは再建当初のものだろうか
- (3) 武士の時代の間取りを復原できるのか

の 3 つをあげられました。

実施された調査では「武家屋敷」の建築当初の墨書などには、建築年代を示すものはなかったそうですが、山梨県の安藤家住宅や塩見縄手の荒布屋（あらめや）など 300 年近く経過した建物の部材と「武家屋敷」の部材の風化などを比較してみるとによって建築年代を予想されたそうです。

また、明治期のものと思われる「武家屋敷」の家相図から間取りの変遷がわかってきたそうです。床柱などに背割りが確認できたので江戸時代末期の建築ではないかと考察されるそうです。

トレンチ調査と埋蔵物の調査も行われ、2 つ以上の焼土の地層（数回の火災の痕跡か）や 2 メートルの掘削調査で木片を確認することができたそうです。

これらの調査によって、(1)「武家屋敷」は今まで建築されてから 300 年経過していると言いつたえられてきましたが、部材調査では 200 年程度の風化だと思われるそうです。また、柱の背割りが確認できたことで江戸時代末期の建築だと考察されるそうです。このことから、「武家屋敷」は建築されてからせいぜい 200 年強程度を経過した建物ではないかと話されました。また、(2)間取りについては建築当初から少なくとも 5 回の改修、減築、増築が行われていることがわかったそうです。そのため、(3)武士の時代の間取りの復原は難しいことがわかったそうです。

これらの調査結果を踏まえた上で「武家屋敷」の復原を行うために、建築当初からの痕跡などをたどり間取りの段階的復元図を作成されたそうです。

間取りの変遷は、【資料 2】の【8 間取り変遷図】によると、A 当初（文化～天保）、B 明治 10 年以降、C 明治 32 年～38 年（家相図あり）、D 明治 38 年以降、E 昭和 6 年、F 昭和 44 年改修後（足立先生のお話では、F は根拠のない改修だったと思われるということでした）、G 現状（傷んだ部分のみの改修）の A～G のように変遷していったそうです。

今回の調査で明治以降に手を加えられていることはわかったそうですが、江戸時代の間取りをたどることはできなかったため、建築当初の姿に戻すことは不可能だったと説明されました。そこで、家相図などで間取りが確認できた、C の明治 32～38 年の

姿に復原されることになったそうです。

その他にも今回の復原で特筆すべきことをあげられました。使用された「武家屋敷」の瓦は松江市独特の「いぶし左棧瓦（ひだりざんがわら）」のため石州瓦ではできないので、愛知県産の三州瓦で作られたのだそうです。足立先生は、島根県の瓦でできないのは寂しいと言っておられました。また昨年解体された「荒布屋（あらめや）」の床の間の古材を、復原された「武家屋敷」の床の間の板に使用されたそうです。

この建物の修復と復原に併せて、庭木も整えられたそうです。建物を痛めないために、桜や松や竹は伐採されたそうです。

最後に足立先生は、松江市には重要な建物がまだまだ残っているので、今後の修理・保存・活用をしていくには、市民の皆さんの力が必要だと述べられました。市民の皆さんに関わってもらって活用してもらいたいと締めくくられました。

今回修復・復原された「武家屋敷」は、改修工事のため平成 28 年 10 月 1 日から休館していました。当初は平成 30 年 4 月の開館を予定していましたが、改修工事だけでなく古い年代の間取りを復原することになったため、工期が 4 ヶ月延長され、8 月 1 日にリニューアルオープンしました。